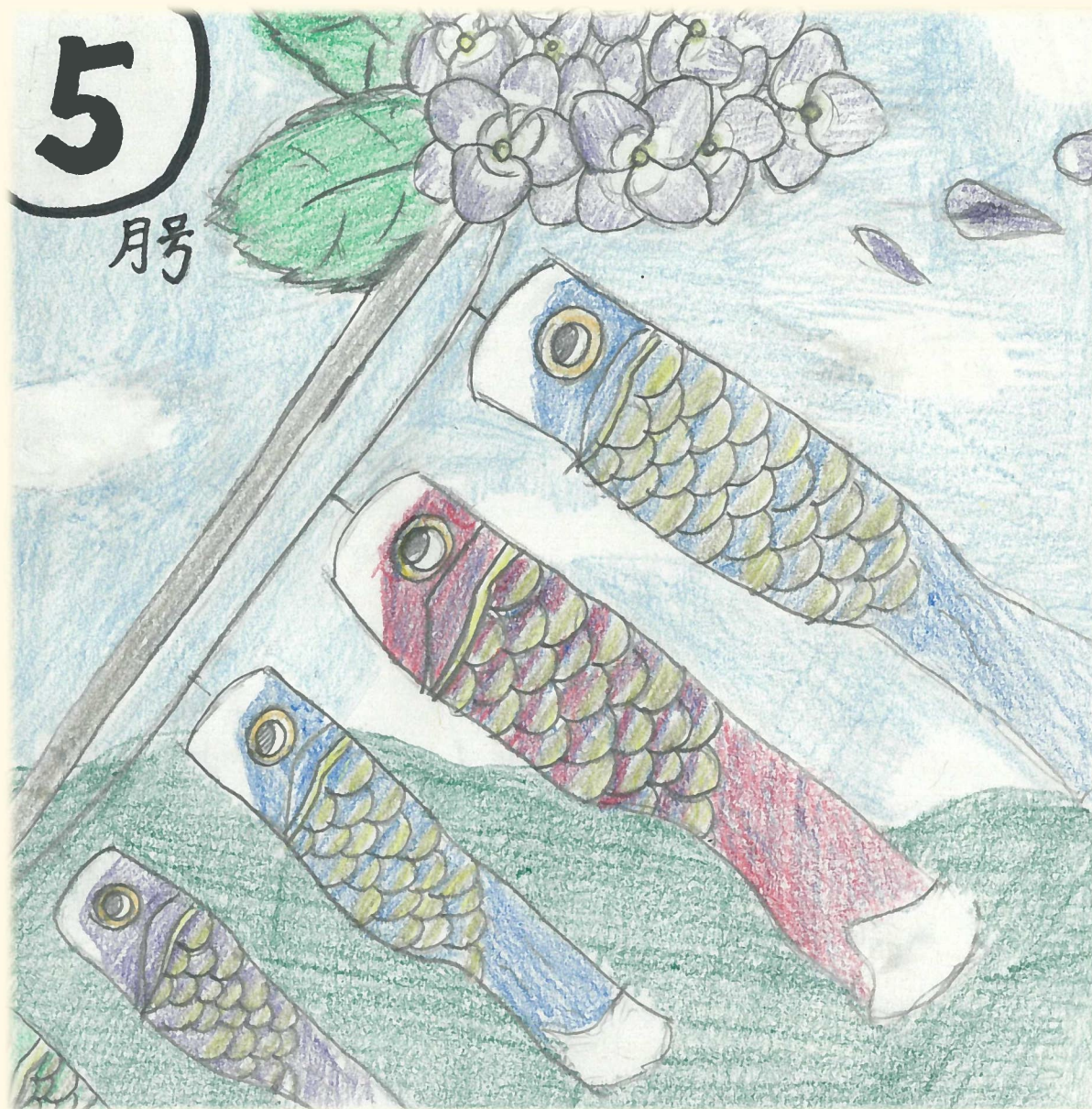


こくりにゅうだよ



大阪府立池田高等学校 水迫 優佑

「後輩もでき、より成長できるように頑張りたいです。」

哲学カフェ

テーマ「ひとりで居たいのは
どんなとき？」

5月12日(土) 14:00~16:00

大阪大学学生・佐々木大輔さんの進行で
対話を楽しむ。

定員:15人(先着順)、5月1日(火)より受付開始

参加費:無料

ネパール語通訳者

スキルアップ研修と交流会

5月26日(土) 13:00~16:30

在日ネパール人の現状についての講義、通訳演習・
意見交換など。

講師:野津 治仁さん(ネパール語通訳・翻訳者)

定員:18人(先着順)

参加費:1500円



協会事業の活動の様子 ～春のお花見に行きました編～

FYAHC 4/2 @服部緑地



フィリピン人中高年のためのグループ活動「Filipino Young at Heart's Club(フィリピンヤングアットハーツクラブ)」では4月1日に服部緑地へお花見に行きました。

5月に企画しているイベントの飾りつけをみんなで作成！

日陰が恋しく半袖姿が清々しいほどの好天の中、50名を超す参加者で万博公園の桜を愛でる一日を過ごしました。

最近の化粧直しで若返った太陽の塔が、相変わらずの歪んだ顔で来る人たちを見守ってくれました。満開の桜の下、大勢で行うゲームやおしゃべりはいつにも増して大盛り上がり！ゲーム中に沸き起こる歓声や拍手が周りの人を仰天させたことでしょう。昼ご飯は、それぞれのお国自慢の料理を分け合い、いっそう交流を深めました。

学習者さんからも「はじめての花見で木ひるのみんなと一緒にできて楽しかったです。みなさんの食べ物おいしかったです。」「またみんなで行きたいです！」「子どももエンジョイしました。」など、嬉しい感想を頂きました。



とよなかにほんご木ひる

3/29 @万博記念公園

コラム 「日本人、聞こえますか～？」(最終回)

中原田 ブルーナ

外国人のための多言語相談サービス(ポルトガル語)多言語スタッフと、子ども事業コーディネーターをしていた中原田ブルーナさんが、2015年4月より故郷・ブラジルに滞在しています。ブルーナさんからの最後のブラジル生活便りをどうぞ。

最後だと思って書いたコラムが3回程ありますが、今回は本当の最後のコラムになると思います。今まで読んでくれたみなさん、ありがとうございました！第1回のコラムを改めて読みましたが、あのとき考えていたことはほぼ変わっていません。3年前の考えと今の考えが異なるのは一つだけだと思います。それはブラジル滞在期間です。1年だけいる予定が3年になり、将来ずっとブラジルに住んでもいいかなと思い始めたことです。

ブラジルに帰ってきている間に大変なこと、嫌なこともありましたが、やろうと思っていたことができて満足しています。おばあちゃん2人と時間を過ごすことができて、久しぶりに親戚、そして大きくなったいとこたちとも時間を過ごすことができました。ブラジルで仕事を見つけて、一人暮らしもできたし、いろんなところに旅行に行くことができました。最後に、ずっと行きたいと思っていたラテンアメリカバックパック旅行にも行けました。キューバ、ペルー、ボリビア、チリ、アルゼンチンに行ってきました。

ブラジルを含めて、南米を旅行して思ったことをみなさんと共有したいと思います。ブラジルでは、社会人も仕事をしながら大学や大学院に通うこともよくありますし、夜バーなどへ行くと、若者だけでなく、子どももお年寄りも外で見かけることが多いです。歳関係なく、みんながやりたいことをやっているところがとても好きです。バックパック旅行中でも、1年旅行をしている50代の女性バックパッカーや半年旅行している家族など、いろんな人に出会えて、話を聞いて、人生の過ごし方はみんな自由であると改めて気づいて、勇気をもらいました。

それぞれの国はいいところ、悪いところがあり、それを見分けることができるといいバランスが取れると思うので、日本とブラジルに長く住むことができて本当によかったと思います。いつも言っていますが、日本とブラジルは正反対な特徴が多いですが、中間になるようなところがちょうどいいと私は考えます。私は将来どんな仕事をし、どんな生活を送ることになるかわかりませんが、日本とブラジルの文化や考え方は、私がどこにいても自分の生活や考え方に影響を与えるでしょう。



家族で過ごした父の誕生日会(筆者右)

Youは何しに国流へ？／第8回 センターで活動している人を紹介します☆

私は小学生の頃から、外国の方との交流や外国の文化に触れるのがとても好きです。国際結婚をして長女が1歳半の時に「広報とよなか」に募集が出ていた「おやこでにほんご」のボランティアとして参加した事がきっかけで国流とつながりを持ちました。

子連れで参加できる「おやこでにほんご」の活動は、外国人女性と子どもの居場所作りです。日本で育児をする共通の悩みを持つママ達との交流は、とても貴重で楽しい時間です。外国人ママにとって異国である日本での子育ては、思っている以上に大変な事も多いです。その中で笑顔で頑張ってる姿に私自身が学ぶ事も多く、配偶者が外国人である私にとっ

ては外国の方の視点を聞いて気づかせてもらう事もたくさんあります。

昨年度から声をかけて頂き「小学校外国語体験活動」のコーディネーターとしても国流に関わる様になりました。豊中市内の小学校に地域に住む外国人ボランティアの方を外国語活動の授業に派遣するお手伝いをさせて頂いています。

色々な国の方との出会いを通して改めて感じる事は、豊中には本当にたくさんの素敵な外国人の方が住んでいることです。様々な活動やイベントのお陰で国流は、私にはもちろん外国にルーツがある娘達にとっても有難く大好きな居場所になっています。



おやこでにほんご
ボランティア
小学校外国語体験活動事業
コーディネーター

田村 美香さん



キッチン

(吉本ばなな・新潮社)

感想文を書くのなんて久しぶりで、どの本にするか悩みましたが、いつかまた絶対読んでみたい、と思っていたこの本を選んでみました。

大切な人を亡くした悲しみや少しずつ前に進んでいく様子が描かれている作品ですが、言葉の選び方、つなぎ方が素敵で、ふーっと本の中に入り込んでしまいます。ひんやりした部屋の空気感までもが感じられ、不思議な浮遊感を味わえるというか。折しも創刊30周年とのこと、前に読んだのはそれは多感な年頃。歳をとり色々鈍感になってしまったのに、やはり不思議な浮遊感は味わえました。

映画にもなっていましたが、私ならえり子さんは天海祐希さんにするかなとか、くだらない空想をしながら読むのも楽しかったです。(協会職員・三谷あゆ子)

火曜日16:30～21:00

金曜日17:00～19:00

／しょうないガダバと／がらくた／国際交流センターで／
子ども学習広場 学楽多 始まりました！！



ボランティアがやさしく
丁寧に教えてくれます！！



しょうないガダバの学習風景



子どもの学習広場「学楽多」が今年度もはじまりました！2016年度より始まった学楽多も今年で3年目。火曜日にしょうないガダバで、金曜日にとよなか国際交流センターで行っている学楽多では、子どもたちが毎回なんやかんや言いながら楽しく学習や工作、調理実習などを行っています。今年度も楽しいことを子どもたちと一緒に繰り返し広げたいと思っています！

【学楽多ボランティア養成講座開催決定！】

学楽多では5月にボランティア養成講座を二日にわたり開催いたします。今回は社会福祉士の阿部寛さんとNPO法人「こどもの里」より荘保共子さんをお招きして子どもたちがおかれている現状や課題、支援の実践などについてお話いただきます。

★第1回 5/18(金)15:00～17:00 講師：阿部 寛さん (社会福祉士) ※定員10名

★第2回 5/25(金)15:00～17:00 講師：荘保 共子さん (「こどもの里」施設長) ※定員10名

対象：養成講座の両日に出席できる方で、講座終了後ボランティアとして関わっていただける方

参加費：無料

問い合わせ先：(公財)とよなか国際交流協会 TEL 06-6843-4343 (担当：トーマス)

登録グループの活動紹介



No.8 (公財)AFS日本協会

——AFSでは留学生を送ったり受け入れたりして国際交流をすすめているということですが、先日見学させていただいた時に発表していたのは大学生の方ですか？

三木：全員高校生ですね。留学へ行く子も高校生ですし、海外から来る子も高校生です。基本的に、留学先で一般家庭にホームステイしながら現地の高校に通うことになります。AFS留学は、ホストファミリーも学校も無償で受け入れてくれるというところが特徴なんです。留学生はプログラム参加費が必要ですが、受け入れ側とはお金のやりとりがないので、受け入れ側の負担は確かに大きいかもしれないですね。でも、お金のやりとりが発生しないが故に、きっちり駄目なことは駄目って言えるし、ぶつかることがあってもビジネスライクではなく本当の家族のようになって留学生は帰国していきます。

——こんなにお金を払ったんだからこういうことしなきゃ、してあげなきゃみたいな空気がないってことですね。

三木：そうですね。私は娘がAFSのプログラムで留学したこともあり、ご恩返しにAFSでボランティアをしようと思って始めたのがきっかけです。今は娘のご恩返しを超えてAFSにどっぷり浸かっていますけれどね(笑)私たちの役割としては、留学生が約1年間日本にいる間に3回のオリエンテーションをします。来日直後の何も分からない時、慣れた頃の夏休み前、最後に帰国直前の3回です。

1年間海外に住んでいると、そこでの生活が自分の標準になってしまって、帰国したときに逆カルチャーショックを受けることも多いんですよね。留学中に自分がやってきたこと大変な思いをしたことについて誰も分かってくれない。周りのみんなは今までと変わらない生活をしていて自分だけが変わってしまったという感覚に陥ってしまうことがあるんです。留学後にそのような症状が出る場合があります。日本にいる間の対策としてオリエンテーションを3回します。その他に留学生の為のイベントを3回ほど企画しています。

——滞在中だけでなく、その後の生活を見越した取り組みですね。

三木：留学生の為のイベントとしては、歓迎会、夏の親睦会、送別会を毎年開催しているのですが、それ以外にも秋に開催する「International Get-Together」略

とよなか国際交流センターには、市民による自主的な国際交流活動を支援するための登録グループ制度があります。実際の活動内容や国際交流への思いを伺いました。

して「IGT」と呼んでいるイベントがあります。海外から大阪に来ている留学生の為ではなく、日本から海外留学する高校生。海外で様々な体験をして帰国したばかりの高校生、これから海外へ行きたいと思っている高校生。この3つのグループに分かれた高校生の交流会が私たちの活動で一番大きなイベントです。留学から帰ってきた子たちは体験談を発表して、これから留学する高校生は体験を聞いて自分の留学の参考にし、近い将来留学したいと思う子たちがそれを聞いていろんな質問を投げかけ留学というものを考える。そんな会を毎年やっていますね。イベントの準備もそうだし、1年間で受け入れてくれるホストファミリー探しやイベント会場の手配など、無償でボランティアをやっています。

——ボランティア精神がすごい…!!(笑)

三木：そうですね(笑)。でも本当に楽しくなければきっと皆さんやらないです。当たり前ですが、毎年違う留学生が来るので、毎年同じ体験にはならないんですよ。こちらは同じ行事をずっと毎年繰り返しているんですけども、来る留学生が違ったら雰囲気はまったく違うし、毎年エキサイティングですね。

——同じプログラムでも楽しみ方が変わるってことですね。

三木：そうですね。ホストファミリーさんも昔から何度も関わってくださる方がおられますが、受け入れる留学生が毎年変わるので、コミュニケーションの取り方もまったく違うことが面白いと言われます。AFSの活動も約1年の関わりなので、楽しいことだけでなく大変なことはもちろんあるんですけど、毎年「今度はどんな子が来るんだろう」という期待と不安を持ちながらやっています。

【活動についての問い合わせ先】

団体名：(公財)AFS日本協会

連絡先：info-osakakita@afs.or.jp

活動日時：不定期

とよなか国際交流センターおしらせ

「こくりゅうだより」第109号(2018年5月号)

発行元・問い合わせ：(公財)とよなか国際交流協会

〒560-0026 大阪府豊中市玉井町1丁目1-1エトレ豊中6F
阪急宝塚線豊中駅すぐ

開館時間：9:00～21:30(貸室受付は20:00まで・水曜休館)

TEL:06-6843-4343 FAX:06-6843-4375

E-Mail:atoms@a.zaq.jp

WEB:http://www.a-atoms.info/



SNSも随時更新中！

「とよなか国際交流センター」で検索！

